

「教育実習体験レポート」

[公立高等学校 国語]

私はこの二週間の実習において、生徒や先生方との関わりから多くのことを学び、大変充実した日々を過ごしました。

実習校では新型コロナウイルスの影響から分散登校をしており、毎日交代でオンラインから受ける生徒と学校に来る生徒が半分ずつに分かれていました。オンラインと併用の授業という新しい試みの中で、回線の不具合や設置に時間がかかるなど見学させていただいた授業でも半分以上時間が取られることも多くありました。私自身も担当クラスの生徒と実際に会うのは週に2回程度で生徒のことを知るという点においてかなりの難しさを感じました。しかしオンラインだからこそ、今回の実習ではほとんどの先生がICTを活用しており、様々な使い方を学ばせていただいたことは利点であったと感じています。最終的には自分の研究授業もICTを使って授業を行いました。

私は一年生の古典を担当し、伊勢物語の「芥川」という作品で研究授業をしました。自分が授業するのは2回という中で、教科担当の先生の流れを保ちながらの授業づくりが大変でした。また、古典という教科を担当する中では、生徒の興味関心を惹く方法がかなり難しいと感じました。特に実習校では古典に対して苦手意識を持っている生徒が比較的多く、その中で少しでも物語や絵などで興味を持ってもらいながらも文法を理解してもらわなければならず悩まされました。そんな中で私はパワーポイントを用いて絵やイラストを多く入れ、生徒に情景を把握させながら授業することを心掛けました。授業の中で生徒が一番積極的だと感じたのが自分の考えを隣の人と話し合うワークです。ほとんどの生徒が自分の意見をしっかりと相手に伝えており、発表では私自身も予想していなかった答えがあるなど、自分の意見を持ち、それをアウトプットする学習ができていました。教科担当の先生の授業では教材研究や物語自体の研究をかなりされているなど感じ、今回の物語に関連した他の物語などを組み込むことで生徒に興味関心を持たせていました。また、クラスによって生徒の雰囲気や全く違う中で、生徒に合わせて授業を作り変えており、勉強になりました。教材研究を深くすることで様々な生徒に対応することができると感じ、他教科の先生に古典は国語以外の教科との関わりもあるので視野を広げて考えると良いということも教わり、改めて教材研究の大切さを学びました。

今回の教育実習で学んだ点が大きく二つあります。まず一つ目が生徒は正直だということです。自分に興味関心のある授業や楽しい授業には積極的に参加するのに対し、苦手意識を持っていたり、楽しくないと感じていると下を向いている生徒が多く見られました。また、授業内容では自身がしっかりと研究し自信をもって伝えた内容は生徒も理解してくれることが多いのに対し、教材研究やあいまいな教え方をすると理解をしている生徒が少ない印象を受けました。生徒の反応を伺いながら、一人でも多くの生徒に理解をしてもらえるような授業づくりが必要だと感じました。二つ目は授業づくりの大変さです。教科担当の先生は

放課後もかなりの時間をかけて教材研究をしていましたが、それでも 10 ある知識の中で生徒には 1 しか伝えることができないうらだと教えてくださいました。私は研究授業で教科書に沿った内容がベースになっていたのもっと教材研究をしてまずは自分の知識の面を増やしていかなければいけないと感じました。

今回の教育実習では教師になりたいと改めて感じました。もちろん大変さやつらさも目の当たりにしましたが、生徒との関わりを通して少しでも力になりたいと感じました。生徒と接する中で毎日同じ日は無く、実習期間の中でも日々成長していました。生徒に負けられないように自身も成長していけるよう努力しようと思いました。